

令和7年度主要事業の成果

支出科目	款：総務費 項：総務管理費 目：国際交流費
担当課	国際課（平和推進担当）
事業名	国際平和拠点ひろしま構想推進事業（単県）【一部新規】

領域	平和
取組の方向	① 核兵器廃絶に向けた新たな政策づくりと多国間枠組みの形成
	② 平和の取組への賛同者の拡大と世界への働きかけ
	③ 広島が有する経験や資源を生かした復興・平和構築
	④ 持続可能な平和推進メカニズムの構築

目的

世界中のリーダーや研究者、NGOなど、幅広い人材や情報・知識、資金などの資源を広島に集め、結びつけ、つなぐことにより、核兵器廃絶や復興・平和構築などの分野の研究や活動が活発に展開される「国際平和拠点ひろしま」を実現することを通じて、平和で安定した国際社会の実現に貢献する。

事業説明

対象者

県民、世界平和を希求するすべての人々

事業内容

(単位：千円)

区 分		内 容	当初 予算額	最終 予算額	予算 執行額 [繰越額]
核兵器廃絶 に向けた新たな 政策づくりと 多国間枠組み の形成	政策づくり事業	○ 核抑止に替わる新たな安全保障政策づくりの推進(ひろしまラウンドテーブル開催、海外研究機関等と連携した調査研究、ひろしまレポート作成等) ○ 研究活動強化と研究成果のアウトリーチ活動(核分野若手研究者による対面集中合宿の誘致、研究成果発表イベント)【新規】	102,477	62,390	55,230 [—]
	多国間枠組み形成事業	○ 核兵器廃絶に向けた多国間枠組みの形成(NPT運用検討会議準備委員会での働きかけ、フレンズ会合設置準備等) ○ 国際会議の機会や本国訪問を通じた国連や政府関係者への積極的な働きかけ(国際会議誘致事業、国際平和のためのユース対話イベント等)【一部新規】	77,259	37,005	31,551 [—]
平和の取組への 賛同者拡大と 世界への働き かけ	国際社会等への アウトリーチ事 業	○ 国連や各国政府への働きかけ強化に向けた多様な団体とのネットワーク化の推進(国際会議等での働きかけ) ○ 被爆・終戦80年を契機とした賛同者の飛躍的拡大に向けた取組(賛同者拡大キャンペーン、バグウォッシュ会議開催支援等)【一部新規】	36,290	14,393	13,388 [—]
広島が有する 経験や資源を 生かした復興 ・平和構築	人材育成強化事業	○ グローバルに活躍し平和貢献できる人材の育成(被爆80年人材育成事業、グローバル未来塾inひろしま、広島-ICANアカデミー等)【一部新規】	48,750	48,314	43,720 [—]
持続可能な 平和推進メカ ニズムの構築	プラットフォーム構築事業	○ 多様な主体の参画を促すプラットフォームの構築と平和資源の集積機能等を備えた体制の整備(2025ひろしま国際平和&ビジネスフォーラムの開催、WEBサイトを通じた賛同者拡大、へいわ創造機構ひろしまの運営等)【一部新規】	61,082	22,545	11,181 [—]
	拠点構想推進事業	○ 国際平和拠点ひろしま構想推進のための構想推進委員会の開催等 ○ へいわ創造機構ひろしまの基盤強化のため法人化を実施【新規】	96,985	67,708	31,664 [—]
合 計			422,843	252,355	186,735 [—]

※ 端数処理の関係で積み上げた数値と合計額が異なる場合がある。

令和 7 年度の成果目標と実績

○ ワーク目標：

指 標 名	基準値 (令和 5 年度)	目標値 (令和 7 年度)	実績値 (令和 7 年度)
新たな政策に係る記事や論文等がメディアや研究者等から発信された数	84 本	100 本	78 本
国連等で意見表明する資格を有する N G O 等と連携した数 (累計)	12 団体	20 団体	22 団体
県が提供するプログラム等により、被爆、復興の歴史や被ばく者医療などについて学んだ人数	22,902 人	20,000 人	22,487 人
国際平和拠点ひろしまのウェブサイトの会員数及び S N S 等の登録者数やアクション数の月間の平均値	17,233 件	32,000 件	—※
プラットフォームに参加する企業・団体等の数 (累計)	91 団体	1,000 団体	—※

※ 令和 7 年度はウェブサイトを開鎖したことにより計測不可

令和 7 年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 被爆・終戦 80 年に当たる令和 7 年度は、研究論文の公表の遅延等により、新たな政策に係る記事や論文等がメディアや研究者等から発信された数については、目標の達成には至らなかった。一方で、被爆・終戦 80 年イベント「核抑止を乗り越えて」を広島市で開催することで、核抑止に関する問題点や核抑止への依存から脱却していく必要性を、多くの県民に発信するなど、平和に関する様々な取組に触れる機会を提供した。引き続き、核抑止に頼らない安全保障の研究成果を基に、様々な主体と連携して、核抑止に替わる新たな安全保障政策づくりの働きかけと発信を行うことが必要である。また、次期国連目標に核兵器廃絶が位置付けられることを目指して、N P T 運用検討会議のサイドイベント等を通じて、科学的な知見を活用しながら核兵器がもたらす影響を発信したほか、参加した各国大使や外交交渉に携わる政府関係者等を集めた「フレンズ会合」の設立に向けた働きかけを行った。引き続き、国際会議等の場において、各国政府へ働きかけを行うとともに、日本政府に対しては、フレンズ会合を主導するよう働きかけを行う必要がある。
- 国連等で意見表明する資格を有する N G O 等と連携した数については、N P T 運用検討会議第 3 回準備委員会のサイドイベントへの米国軍備管理協会会長登壇や、パグウォッシュ会議の招致、沖縄県の「グローバル・アライアンス「持続可能な平和と繁栄をすべての人に」」(GASPPA)への参加など、N G O 等との連携を着実に推進し、目標を達成した。また、被爆・終戦 80 年の取組の一環として、大阪・関西万博の広島県ブース『RE:WORLD HIROSHIMA』において、「#未来へのおりづるキャンペーン」の連携企画として「おりづるワークショップ」を実施し、参加者が 5 日間で 5,000 人を超える結果となり、平和の取組への賛同者を拡大できた。引き続き、核兵器廃絶が国際的合意となるよう、多様な主体との連携を広げていく必要がある。
- 県が提供するプログラム等により、被爆、復興の歴史や被ばく者医療などについて学んだ人数については、「グローバル未来塾 in ひろしま」や「広島-ICAN アカデミー」等の若者を対象とする人材育成プログラムを着実に実施するとともに、核兵器の現状に関する「ひろしまレポート」や広島の被爆からの復興に関する冊子「広島の復興の歩み」等の積極的な配布、平和イベント等への復

興に関するパネルの貸出など、より多くの方に平和について学ぶ機会を提供したことにより、目標を達成した。引き続き、より高度な知識を得るためのきっかけを与え、将来、国際的に活躍できる人材を輩出することにつなげるとともに、人材育成プログラムの修了生が平和に関する活動を継続するための効果的なフォローアップを新たに実施する必要がある。

- 節目である被爆・終戦 80 年に当たり、令和 7 年 3 月に被爆・終戦 80 年特設サイトを開設し、「第 63 回パグウォッシュ世界大会広島大会」や「核の歴史に関するサマーキャンプ in ひろしま 2025」などのイベントについて、県民等へのイベント参加募集や開催報告等、積極的な情報発信を図った。これらの取組を通じて、被爆地広島を訪れる各会のリーダー等と共に、力強い平和のメッセージを世界に発信し、核兵器廃絶に向けた気運の醸成につなげることができた。
- ビジネスによる平和への貢献の契機とすることを目的に開催した「2025 国際平和&ビジネスフォーラム」については、当初の想定を超える 2,338 名の参加があった。開会時に国内外のビジネスリーダー等とともに発出した「2025 ひろしま宣言」において、ビジネスによる平和の旗印として ESGP（ESG（環境、社会、ガバナンス）に加え、平和に貢献する企業・投資活動）提唱した。一方で、ESGP の趣旨への賛同を、平和への継続的な関与に結びつけるためには、ESGP の理念をどう浸透させていくかが今後の課題となる。
- 多様な主体が参画するプラットフォームを構築するためには、企業が ESGP に基づき、平和への貢献を可視化しやすい状況を生み出し、様々な形で企業の平和貢献が一般化し、更なる貢献につながる状況を創出していくことが必要である。
- 地元経済界や広島ゆかりの企業へのトップセールスにより、令和 8 年 3 月末時点で、広島県・へいわ創造機構ひろしま（HOPe）に累計 10 億円余の寄附を受けた。令和 7 年 11 月には HOPe を法人化した。更なる資金の獲得に向けて、HOPe 法人化の意義や取組に対する認知・理解の促進を図る必要がある。

令和 8 年度の取組方向

- 被爆・終戦 80 年で高まった核兵器廃絶に向けた機運や、パグウォッシュ会議の招致をはじめ、様々な取組を通じて形成されたネットワークを生かして、核抑止に頼らない新たな安全保障政策づくりを一層推進するとともに、国際会議への参加等を通じて、核抑止に頼らない安全保障の在り方についての議論の活性化を図る。
- 国連や各国政府への働きかけを強化するため、GASPPA を通じて、多様な主体とのネットワークの強化を図り、国際会議での「核兵器の問題は人類や地球の存続に関わる課題である」という問題提起や賛同者拡大キャンペーン等を実施する。
- 引き続き、冊子「広島の復興の歩み」の配布やパネルの展示、実施研修のオンライン学習機会の提供等を通じて、被爆、復興の歴史などについて学ぶ人数の拡大を図るとともに、「グローバル未来塾 in ひろしま」や「広島-ICAN アカデミー」を継続的に実施する。あわせて、核兵器廃絶を中心テーマとした「ひろしまグローバル・ユースフォーラム」を新たに実施することで、平和のメッセージを世界に発信する次世代の平和人材の育成を強化するとともに、研修修了生の平和に関する継続的な活動につなげるため、効果的なフォローアップを行う修了生ネットワークの立ち上げを行う。

- 企業の平和貢献が一般化し、更なる貢献につながる状況の創出に向け、国連が次期目標を念頭に検討を進める「Beyond GDP」の枠組みに、核兵器廃絶につながる平和に関する概念が位置づけられるよう、企業による平和貢献の拡大策などについて、国内有数の研究者と連携して検討を進める。
- また、多様な主体の参画を促すため、国際平和拠点としての取組に対する認知・理解の促進に向け、経済団体等へのアプローチを積極的に進めるほか、県が関係するイベント等において若者の参画機会の拡大を積極的に図る。

令和 7 年度主要事業の成果

支出科目	款：総務費 項：地域振興費 目：スポーツ推進費
担当課	スポーツ推進課
事業名	アーバンスポーツ大会開催支援事業（単県）【新規】

目的

アーバンスポーツは、若者を中心に高い集客力があり、スポーツの枠を超え、観光、地域経済の活性化にもつながるなど成長が期待できることから、広島の新しいブランド価値を生み出す重要な取組として、アーバンスポーツ大会の開催を支援する。

事業説明

対象者

アーバンスポーツ競技者、県民

事業内容

(単位：千円)

内 容	当初予算額	最終予算額	予算執行額 [繰越額]
アーバンスポーツ大会(アーバンフューチャーズ広島) への大会補助 【開催時期】 令和 7 年 4 月 18 日～20 日 【開催場所】 ひろしまゲートパークプラザ(旧広島市民球場跡地)	30,000	30,000	30,000 [—]
合 計	30,000	30,000	30,000 [—]

令和 7 年度の成果目標と実績

○ 事業目標：

指標名	目標値 (令和 7 年度)	実績値 (令和 7 年度)
延べ来場者数	50,000 人	51,040 人

令和 7 年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 延べ来場者数については、SNS 広告等による大会の事前周知等によって、目標を達成した。
- 次回大会に向けては、来場者の要望等を踏まえて、休憩所の設置など会場レイアウト等の改善を行う必要がある。
- 今後も大会を継続的に開催することで、若者を中心にアーバンスポーツへの興味・関心を一層高めていく必要がある。

令和 8 年度の取組方向

- 4 月 17 日～19 日にアーバンスポーツ大会「アーバンフューチャーズ広島 2026」を開催する。
- 県内外の来場者にアーバンスポーツの魅力や迫力を伝えるとともに、広島の魅力発信につながる大会となるよう、関係者と連携しながら取り組む。

令和7年度主要事業の成果

支出科目	款：総務費 項：企画費 目：企画総務費	領域	スポーツ・文化
担当課	文化芸術課	取組の方向	④ 文化芸術に親しむ環境の充実
事業名	地域文化拠点強化事業（一部国庫）【一部新規】		

目的

広島県公立文化施設ネットワークを活用し文化資源や取組事例の共有等を進めるとともに、新たに若者や子育て世代等の幅広い層が身近に文化芸術に親しめるよう、若い世代の興味やニーズに応える幅広いジャンルの掘り起こしなど、文化芸術の魅力発信の強化に取り組む。

事業説明

対象者

県民、公立文化施設、市町

事業内容

(単位：千円)

内 容		当初予算額	最終予算額	予算執行額 [繰越額]
広島県公立文化施設ネットワーク	○ 各市町の文化資源や取組事例等の共有を図るとともに、県外の専門家を招いた勉強会の開催等を通じて、各市町における文化芸術事業の企画・運営能力の向上を支援	5,916	5,677	5,053 [—]
文化芸術の魅力発信の強化【新規】	○ 身近に文化芸術に親しめる機会の拡充に向けて、若い世代の興味やニーズに応える幅広いジャンルの掘り起こしを行うとともに、より効果的な情報発信の手法等を検討・試行 ○ <被爆・終戦80年平和推進プロジェクト関連> オロチ・神楽とオーケストラの協演「平和の舞 2025一鎮魂と再生」 ・ 官民共同設置の実行委員会への負担金	5,820	4,820	4,820 [—]
合 計		11,736	10,497	9,873 [—]

令和7年度の成果目標と実績

○ ワーク目標：

指 標 名	基準値 (令和5年度)	目標値 (令和7年度)	実績値 (令和7年度)
文化芸術について 関心がある県民の割合	68.8%	85.0%	75.1%

○ 事業目標：

指 標 名	基準値 (令和 5 年度)	目標値 (令和 7 年度)	実績値 (令和 7 年度)
新たに企画実施された文化 芸術イベント等の鑑賞者数	29, 953 人	130, 900 人	43, 229 人

令和 7 年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 事業目標については、「広島県公立文化施設ネットワーク」において、各市町の文化資源や取組事例等の共有を図るとともに、県外の専門家を招いた勉強会の開催等を通じて、各市町における文化芸術事業の企画・運営能力の向上支援に取り組んだ。
- その結果、各施設において新たな企画や事業改善が行われ、鑑賞者数は年々増加しているが、県民の文化芸術に対する興味やニーズの多様化に十分に対応できていないことから、目標の達成には至っていない。
- また、ワーク目標については、「古代エジプト展」を始めとした県立美術館での多様な世代が楽しめる展覧会の開催、「広島神楽」や「縮景園」などの魅力を盛り込んだ動画コンテンツの SNS 発信などを通じて、文化芸術の魅力の効果的な発信に取り組んだが、文化芸術について関心がある県民の割合を年代別に見ると、40 代以上の年齢層に比べ、20～30 代の若い世代ほど関心が低い傾向にあり、目標の達成には至っていない。
- このため、今後、若者やファミリー層などの若い世代に焦点を当てた取組を強化していく必要がある。

令和 8 年度の実施方針

- 県民一人一人が、それぞれの価値観やライフスタイルに合った文化芸術を楽しむ機会の充実を図るため、美術館・縮景園におけるシーズンごとの特別展のテーマと連動した体験型イベントや、市町・公立文化ホール・広島交響楽団と連携した 0 歳児から親子で気軽に参加できるファミリーコンサートを開催する。
- また、若者やファミリー層の関心・ニーズに応える「県内各地の身近なイベント情報等」を一元的に収集・発信する方策について検討を進める。